

2021年3月期 第2四半期決算説明資料



2020年 11月4日

株式会社 小森コーポレーション

1. 2021年3月期第2四半期業績および通期計画(P4～34)

取締役管理本部長 松野 浩一

2. 経営概況(P36～47)

代表取締役社長 持田 訓

2021年3月期第2四半期業績および通期計画



2020年11月4日
株式会社 小森コーポレーション

決算概要 P/L

(単位:億円)

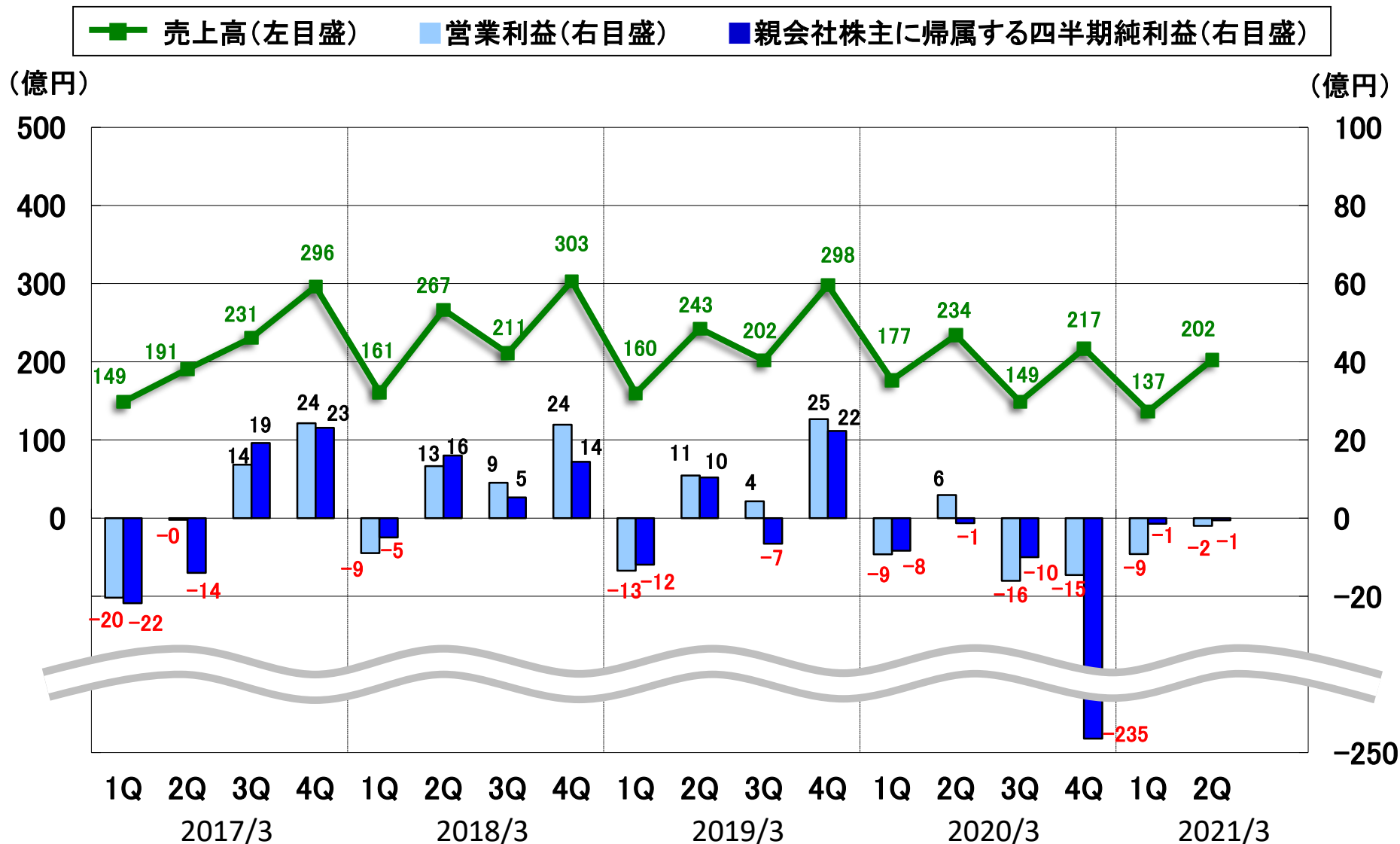
		2021/3 上期実績	2020/3 上期実績	差額	前年 同期比
受注高		309	493	△184	63%
売上高		339	411	△72	83%
営業利益		△11	△3	△8	—
経常利益		△7	△7	0	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益		△2	△10	7	—
平均レート(円)	US\$	106.68	109.00	/	
	EUR	121.36	121.43		
期末レート(円)	US\$	105.80	107.92		
	EUR	124.17	118.02		

主な資産・負債

(単位:億円)

	当上期末 2020.9.30	前期末 2020.3.31	差額
現金・預金	369	274	95
売上債権	184	182	1
有価証券	83	128	△45
棚卸資産	347	364	△17
うち製品	159	179	△20
有形固定資産	169	157	12
無形固定資産	44	50	△6
仕入債務	104	163	△59
短期借入金	104	0	103
社債	0	0	0
長期借入金	3	0	3
株主資本	980	988	△8
総資産	1,391	1,357	34

売上高・損益の推移

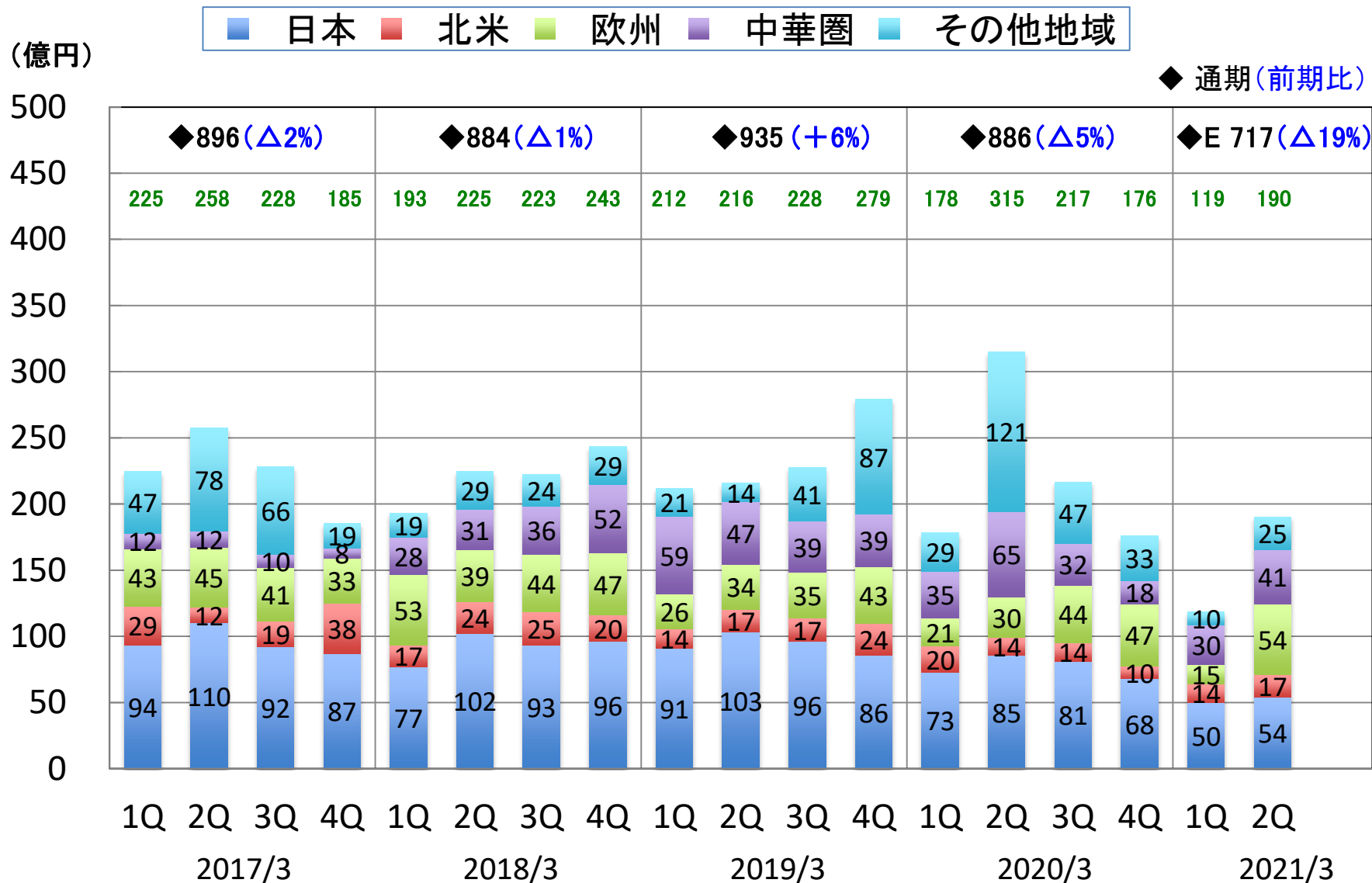


地域別受注高

(単位: 億円)

	2021/3 上期実績	2020/3 上期実績	前年 同期比
日 本	104	158	66%
北 米	31	33	93%
(百万ドル)	(29)	(31)	(95%)
欧 州	68	52	132%
(百万ユーロ)	(56)	(43)	(132%)
中 華 圏	71	100	71%
そ の 他 地 域	35	150	23%
合 計	309	493	63%

地域別受注高



品目別受注高

(単位：億円)

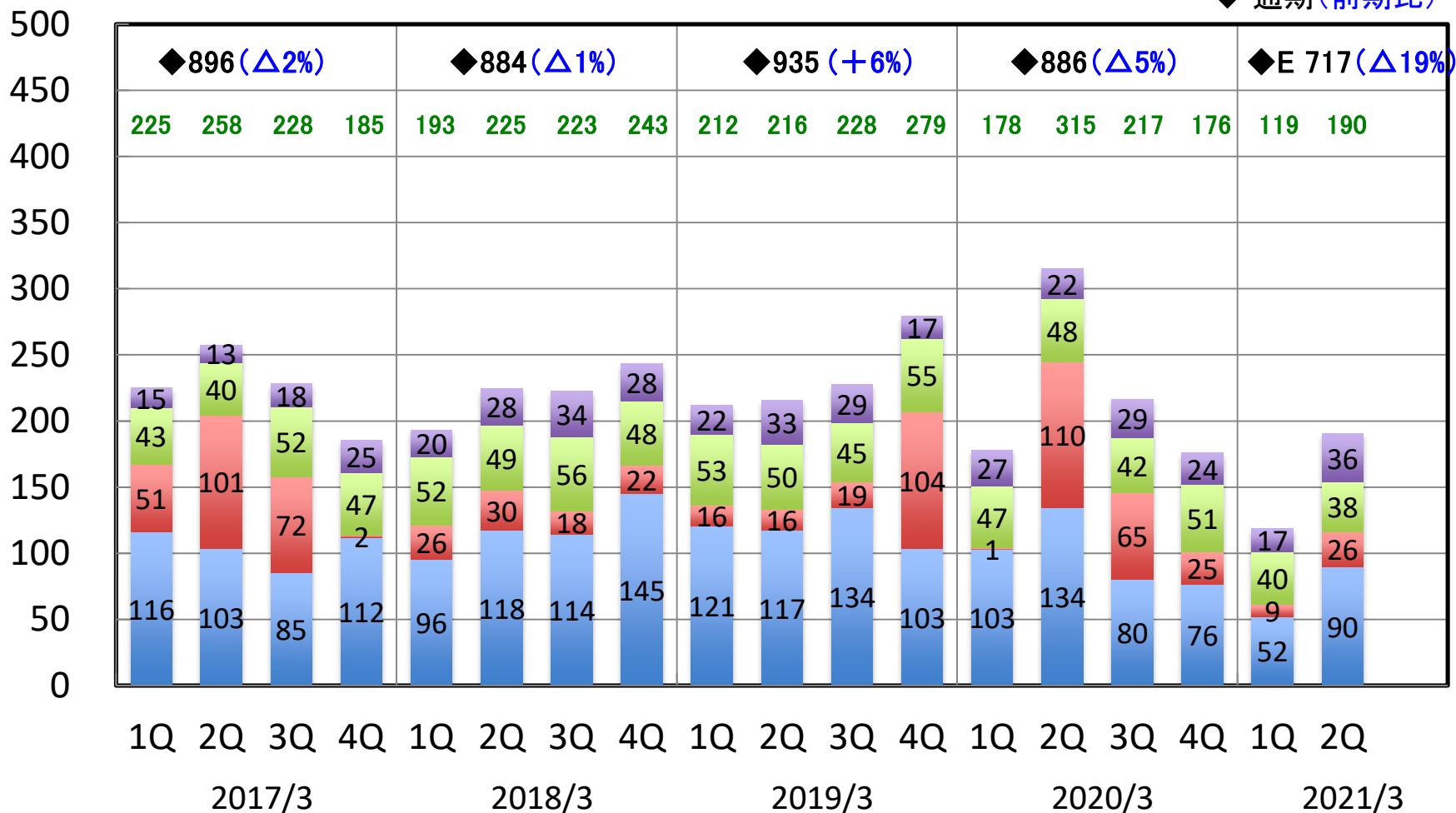
	2021/3 上期実績	2020/3 上期実績	前年 同期比
枚 葉 機	142	237	60%
輪転機・証券印刷機	36	112	32%
中古機・部品修理	77	95	82%
DPS・PE・その他	54	50	108%
合 計	309	493	63%

品目別受注高

■ 枚葉機 ■ 輪転機・証券印刷機 ■ 中古・部品修理 ■ DPS・PE・その他

(億円)

◆ 通期(前期比)



地域別売上高

(単位：億円)

	2021/3 上期実績	2020/3 上期実績	前年 同期比
日 本	162	162	100%
北 米	14	31	46%
(百万ドル)	(14)	(29)	(47%)
欧 州	58	62	94%
(百万ユーロ)	(48)	(51)	(94%)
中 華 圏	54	74	73%
そ の 他 地 域	50	82	61%
合 計	339	411	83%

品目別売上高

(単位：億円)

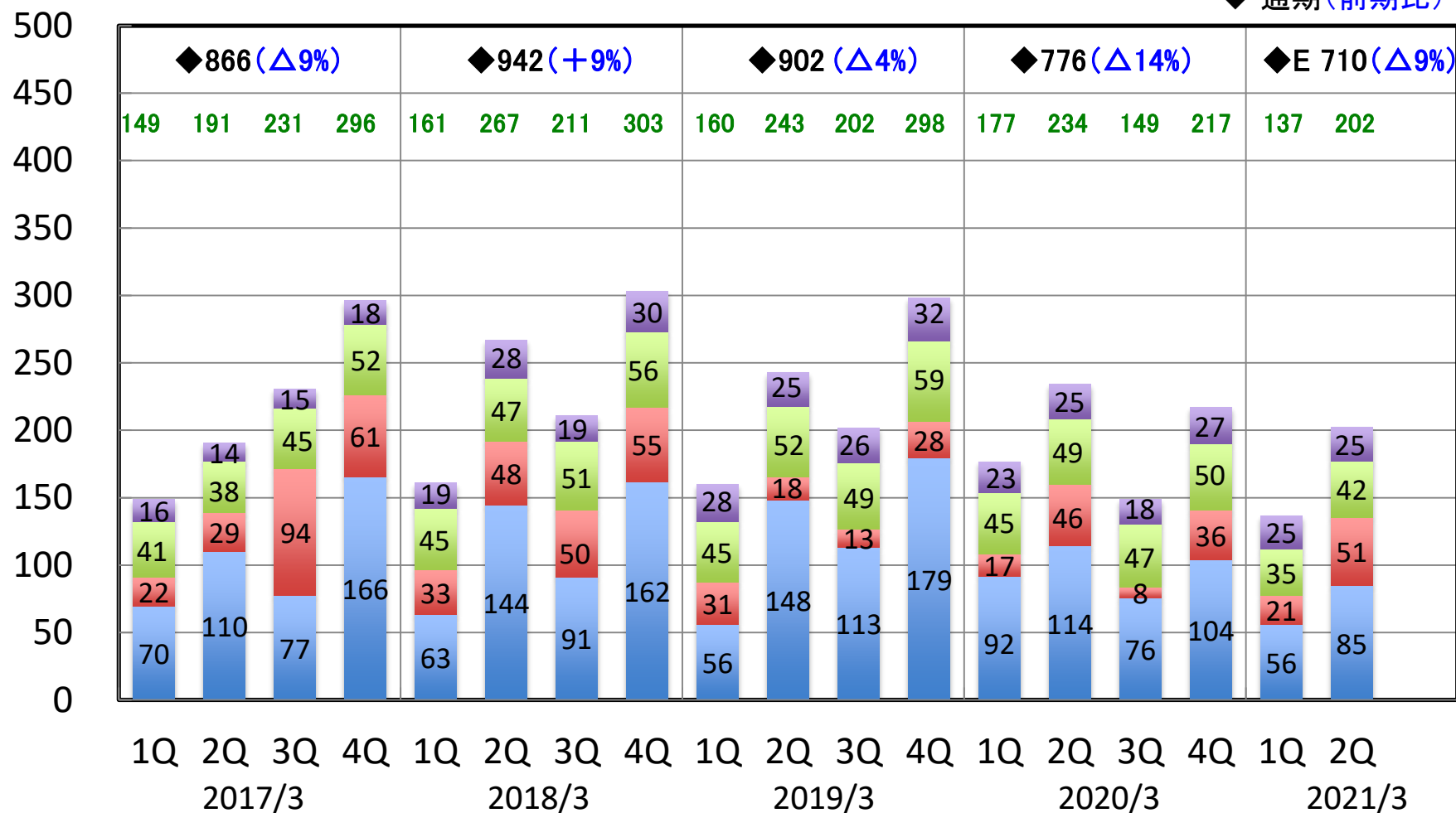
	2021/3 上期実績	2020/3 上期実績	前年 同期比
枚 葉 機	141	206	68%
輪転機・証券印刷機	72	62	116%
中古機・部品修理	76	94	81%
DPS・PE・その他	50	49	103%
合 計	339	411	83%

品目別売上高

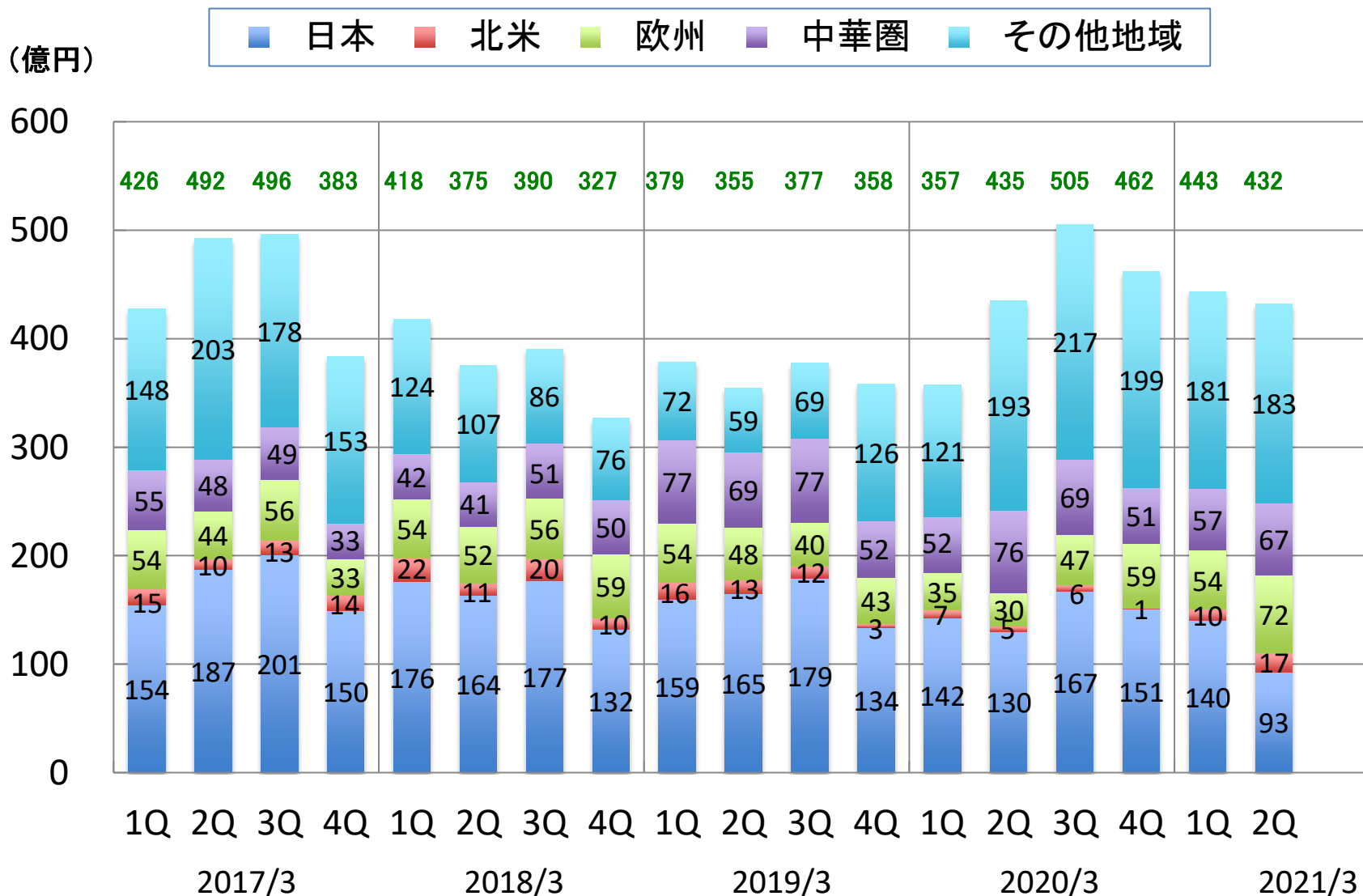
■ 枚葉機 ■ 輪転機・証券印刷機 ■ 中古・部品修理 ■ DPS・PE・その他

(億円)

◆ 通期(前期比)

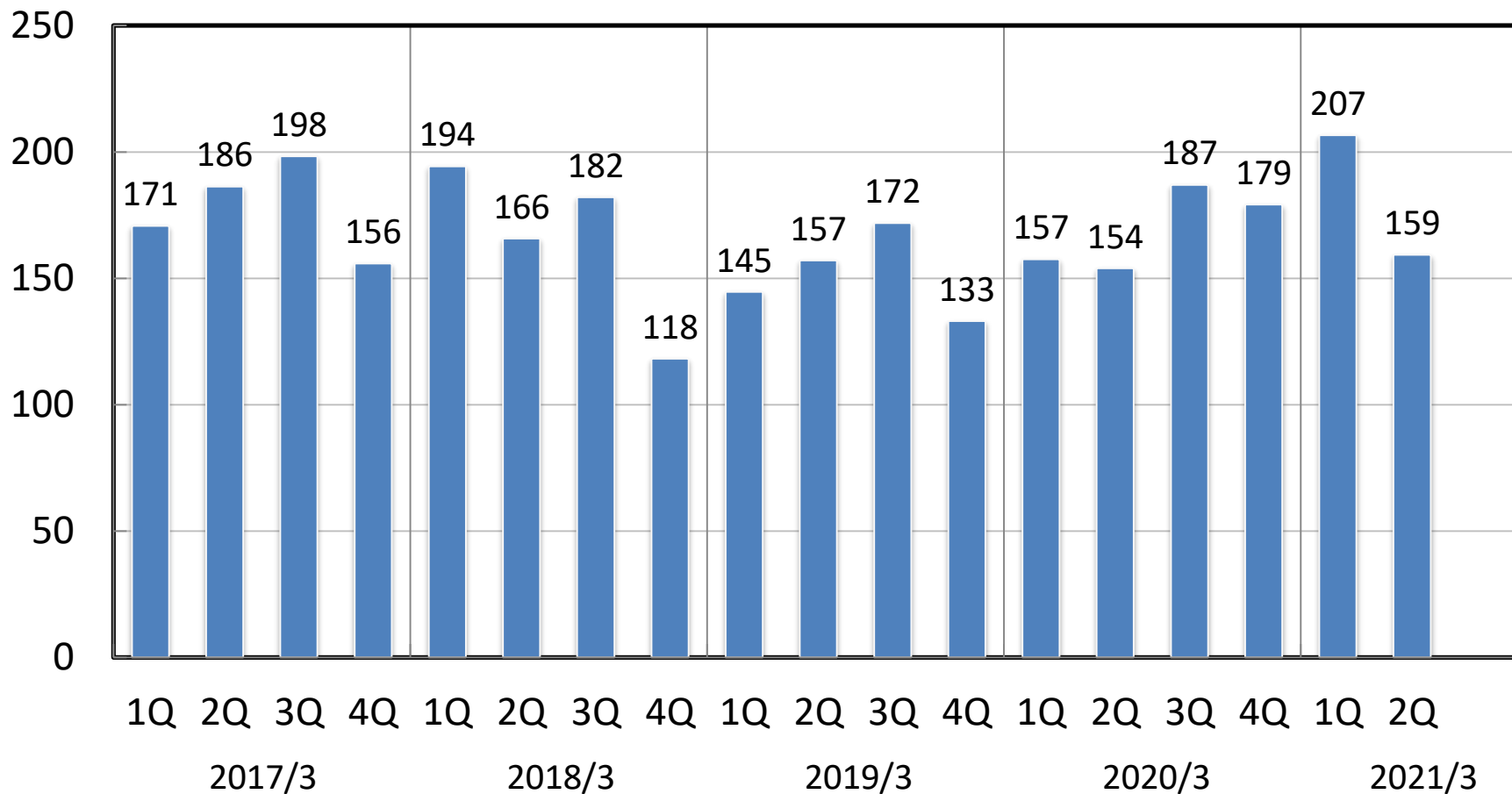


受注残高の推移

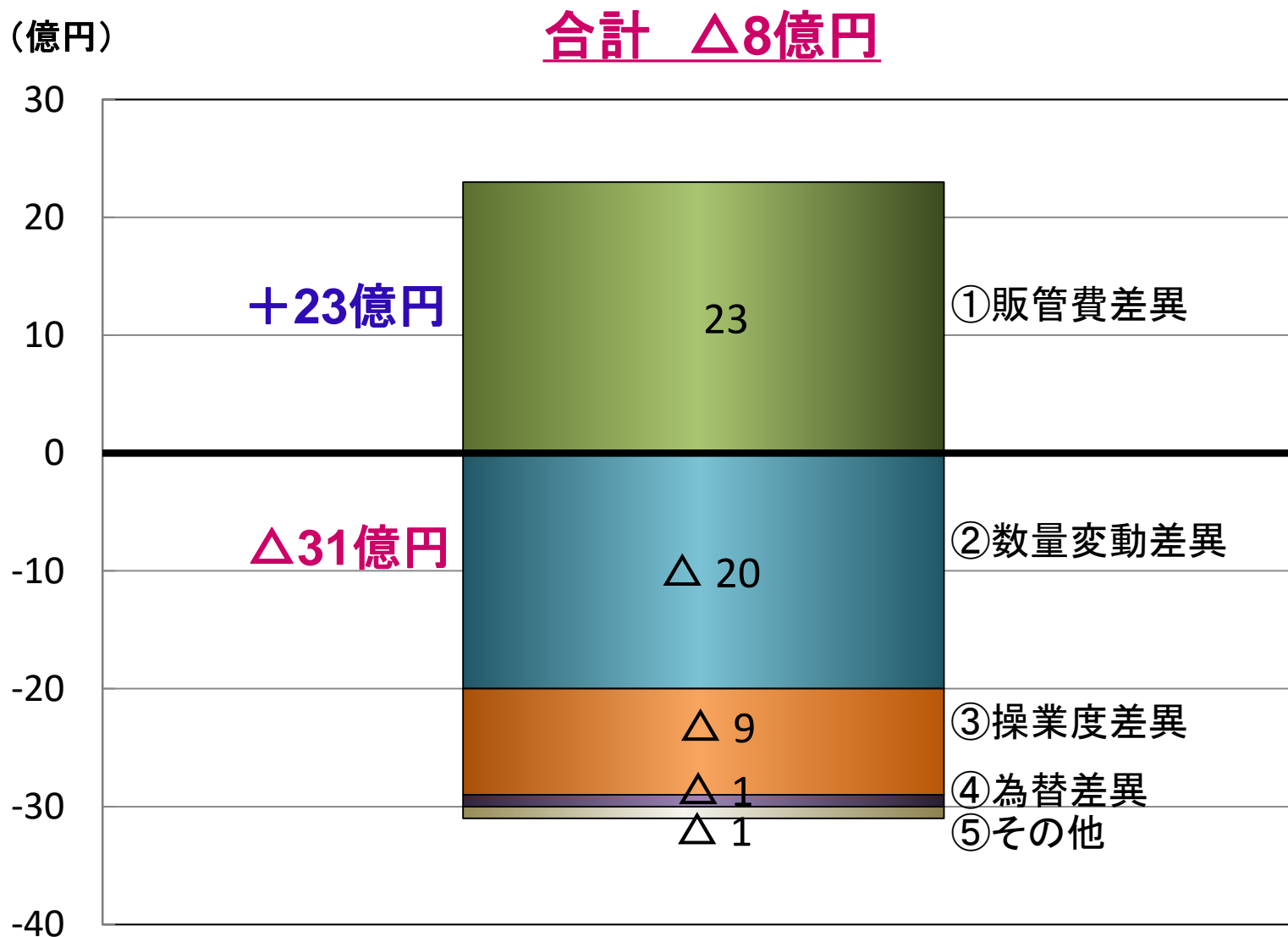


製品在庫の推移(原価ベース)

(億円)



上期営業損益の変動要因(対 前年同期比)



業績見通し

(単位:億円)

		2021/3 上期実績	2021/3 下期計画	2021/3 通期計画	2020/3 前期実績	差額	前期比
受注高		309	408	717	886	△169	81%
売上高		339	371	710	776	△66	91%
営業利益		△11	△15	△26	△34	8	-
経常利益		△7	△12	△19	△35	16	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益		△2	△19	△21	△255	234	-
平均レート(円)	US\$	106.68	105.00	105.90	109.10	/	/
	EUR	121.36	115.00	118.43	121.14		
期末レート(円)	US\$	105.80	105.00	105.00	108.83		
	EUR	124.17	115.00	115.00	119.55		

地域別受注高 予想

(単位:億円)

	2021/3 上期実績	2021/3 下期計画	2021/3 通期計画	2020/3 前期実績	差額	前期比
日 本	104	159	264	308	△44	86%
北 米	31	16	47	57	△10	82%
(百万ドル)	(29)	(15)	(44)	(52)	(△8)	(84%)
欧 州	68	67	136	142	△7	95%
(百万ユーロ)	(56)	(58)	(115)	(117)	(△3)	(98%)
中 華 圏	71	58	129	149	△20	86%
そ の 他 地 域	35	107	142	230	△88	62%
合 計	309	408	717	886	△169	81%

品目別受注高 予想

(単位:億円)

	2021/3 上期実績	2021/3 下期計画	2021/3 通期計画	2020/3 前期実績	差額	前期比
枚 葉 機	142	160	302	394	△92	77%
輪転機・証券印刷機	36	94	130	202	△72	64%
中古機・部品修理	77	89	166	188	△22	88%
DPS・PE・その他	54	66	120	103	17	116%
合 計	309	408	717	886	△169	81%

地域別売上高 予想

(単位:億円)

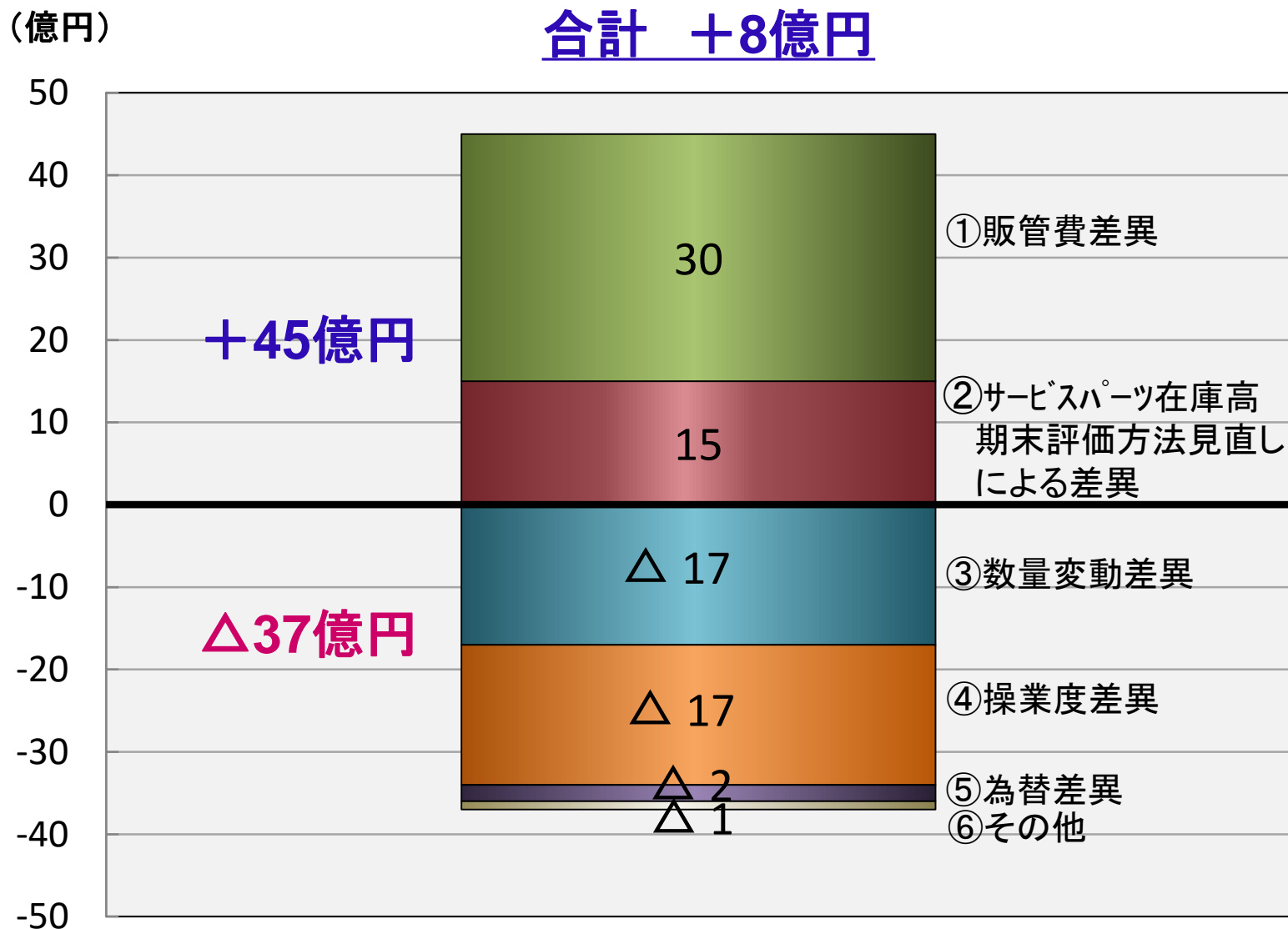
	2021/3 上期実績	2021/3 下期計画	2021/3 通期計画	2020/3 前期実績	差額	前期比
日 本	162	132	295	290	4	101%
北 米	14	28	43	59	△16	73%
(百万ドル)	(14)	(27)	(40)	(54)	(△14)	(75%)
欧 州	58	81	139	123	16	113%
(百万ユーロ)	(48)	(69)	(117)	(102)	(16)	(115%)
中 華 圏	54	63	117	149	△32	78%
そ の 他 地 域	50	67	117	155	△38	75%
合 計	339	371	710	776	△66	91%

品目別売上高 予想

(単位:億円)

	2021/3 上期実績	2021/3 下期計画	2021/3 通期計画	2020/3 前期実績	差額	前期比
枚 葉 機	141	172	312	386	△73	81%
輪転機・証券印刷機	72	41	114	107	6	106%
中古機・部品修理	76	86	163	190	△28	85%
DPS・PE・その他	50	71	121	93	28	130%
合 計	339	371	710	776	△66	91%

通期営業損益(予想)の変動要因(対 前期比)

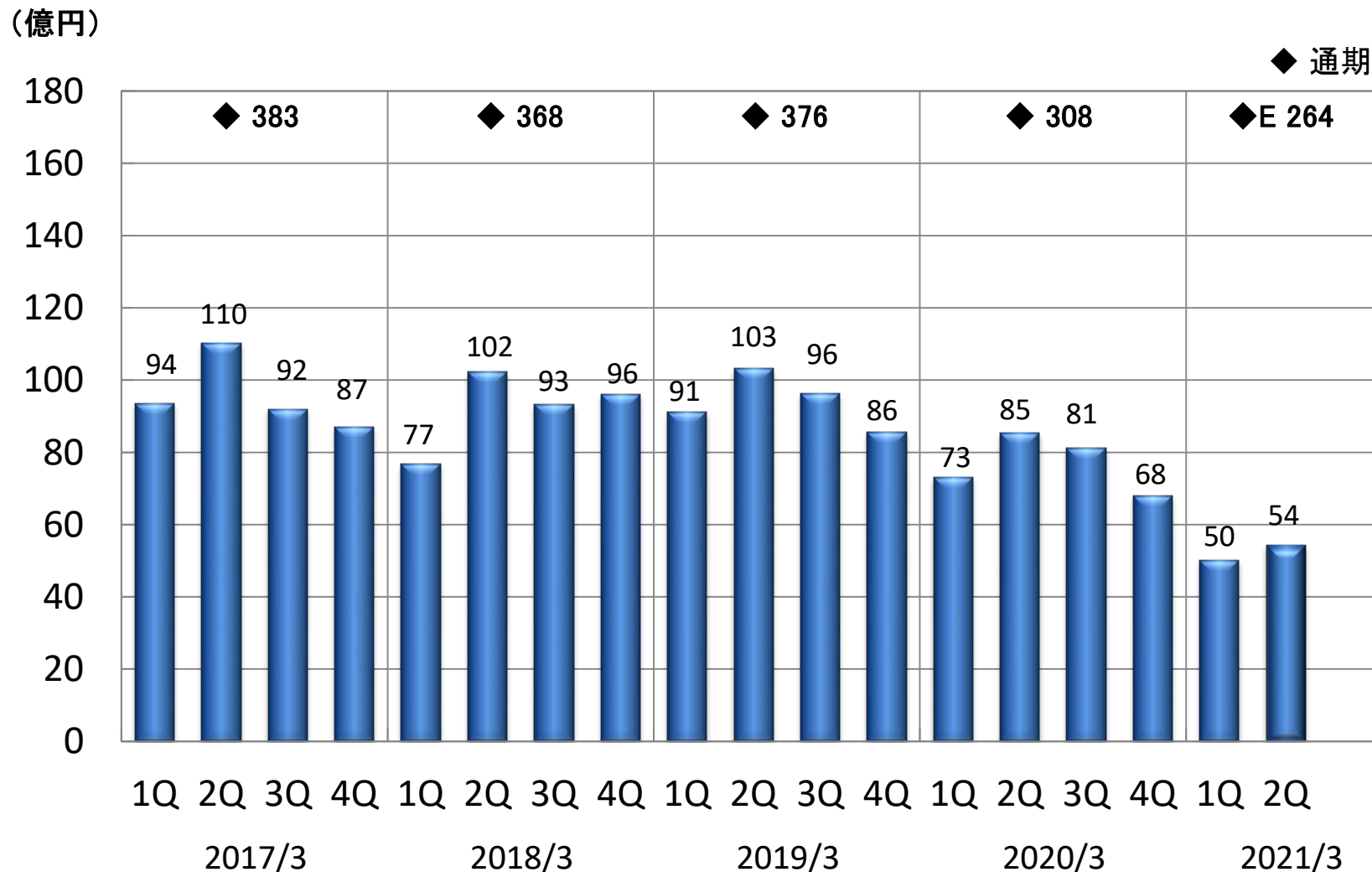


設備投資・減価償却費・開発費

(単位:百万円)

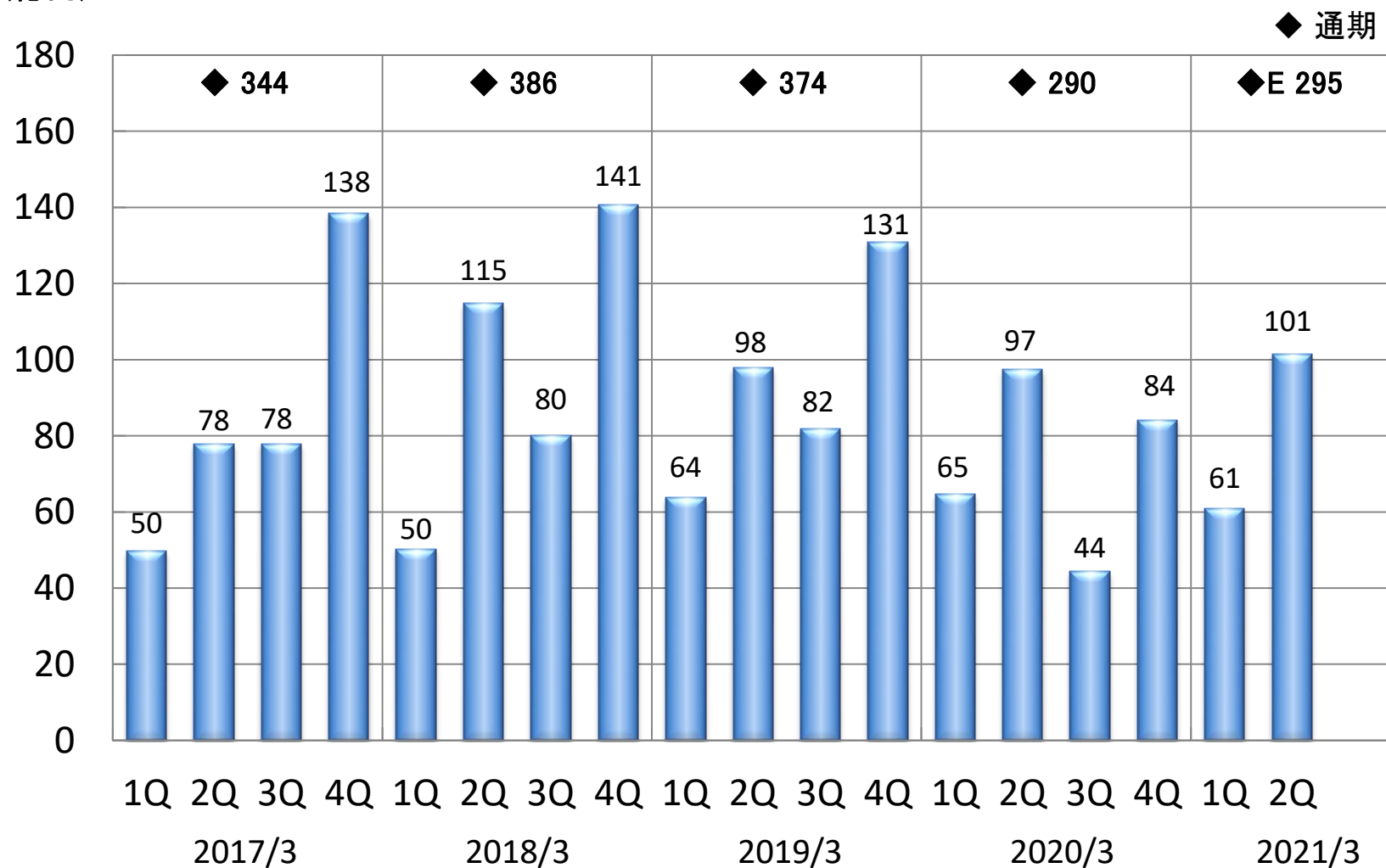
	2016/3	2017/3	2018/3	2019/3	2020/3	2021/3 上期	2021/3 予想
従業員数(名)	2,189	2,195	2,227	2,335	2,363	2,744	2,740
人件費	20,495	20,317	20,245	20,908	20,386	9,705	20,000
設備投資額	3,126	1,455	1,201	1,334	1,678	613	1,600
減価償却費	2,027	2,133	1,889	1,965	2,304	748	1,600
研究開発費	4,975	4,885	4,785	4,740	4,899	2,033	3,700
(売上高比)	(5.2%)	(5.6%)	(5.1%)	(5.3%)	(6.3%)	(6.0%)	(5.2%)

日本 受注高



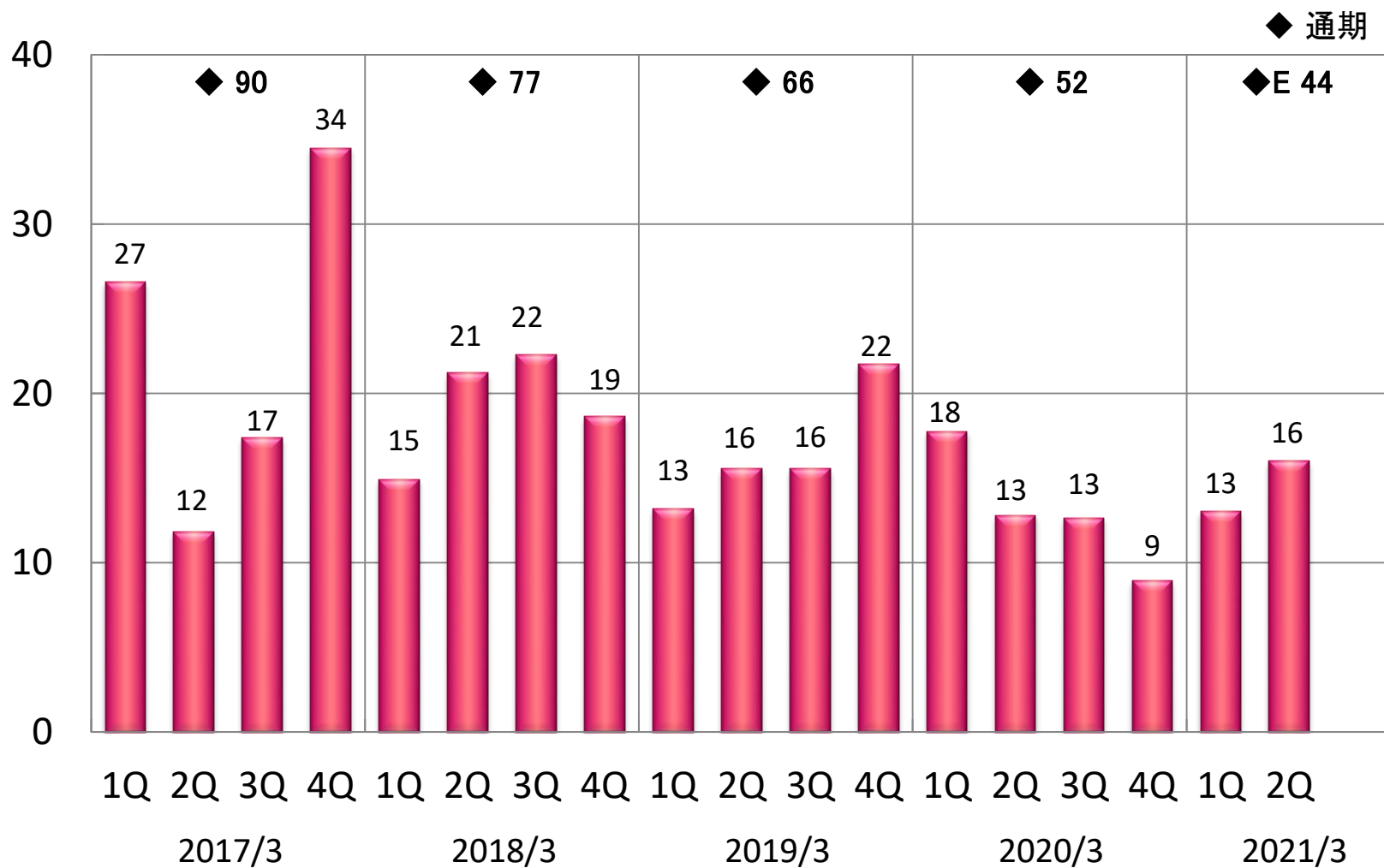
日本売上高

(億円)



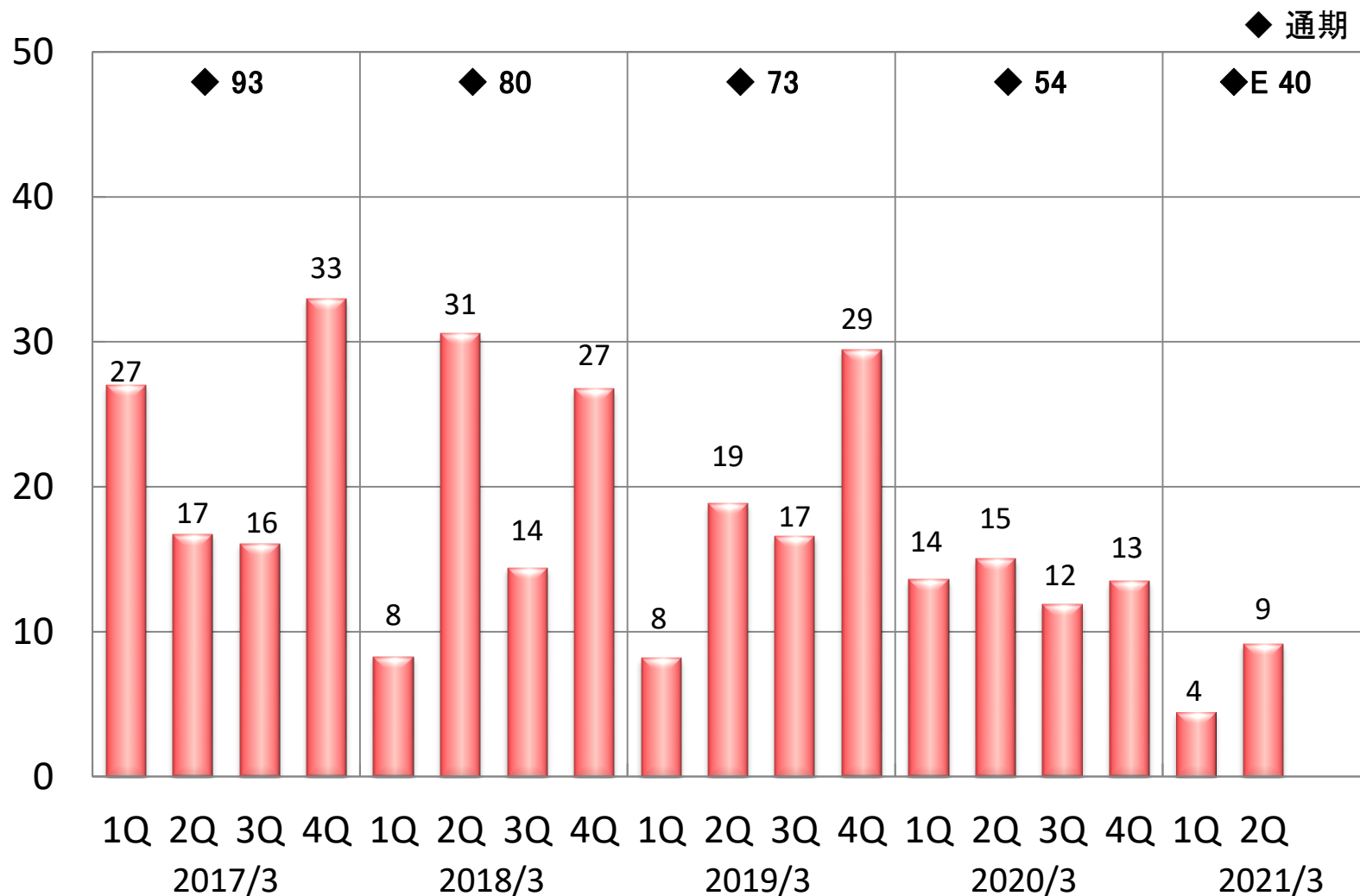
北米 受注高

(million \$)



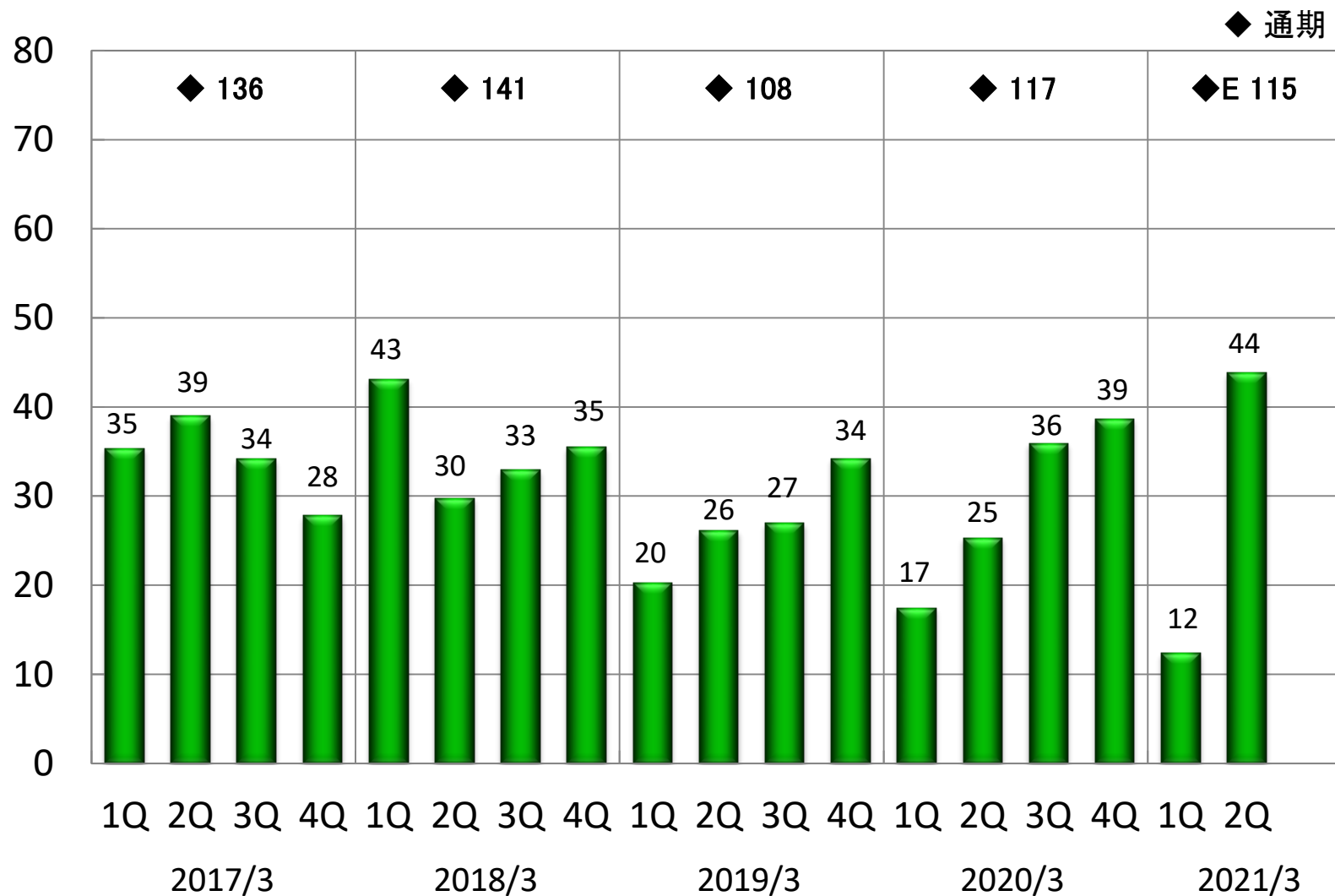
北米売上高

(million \$)



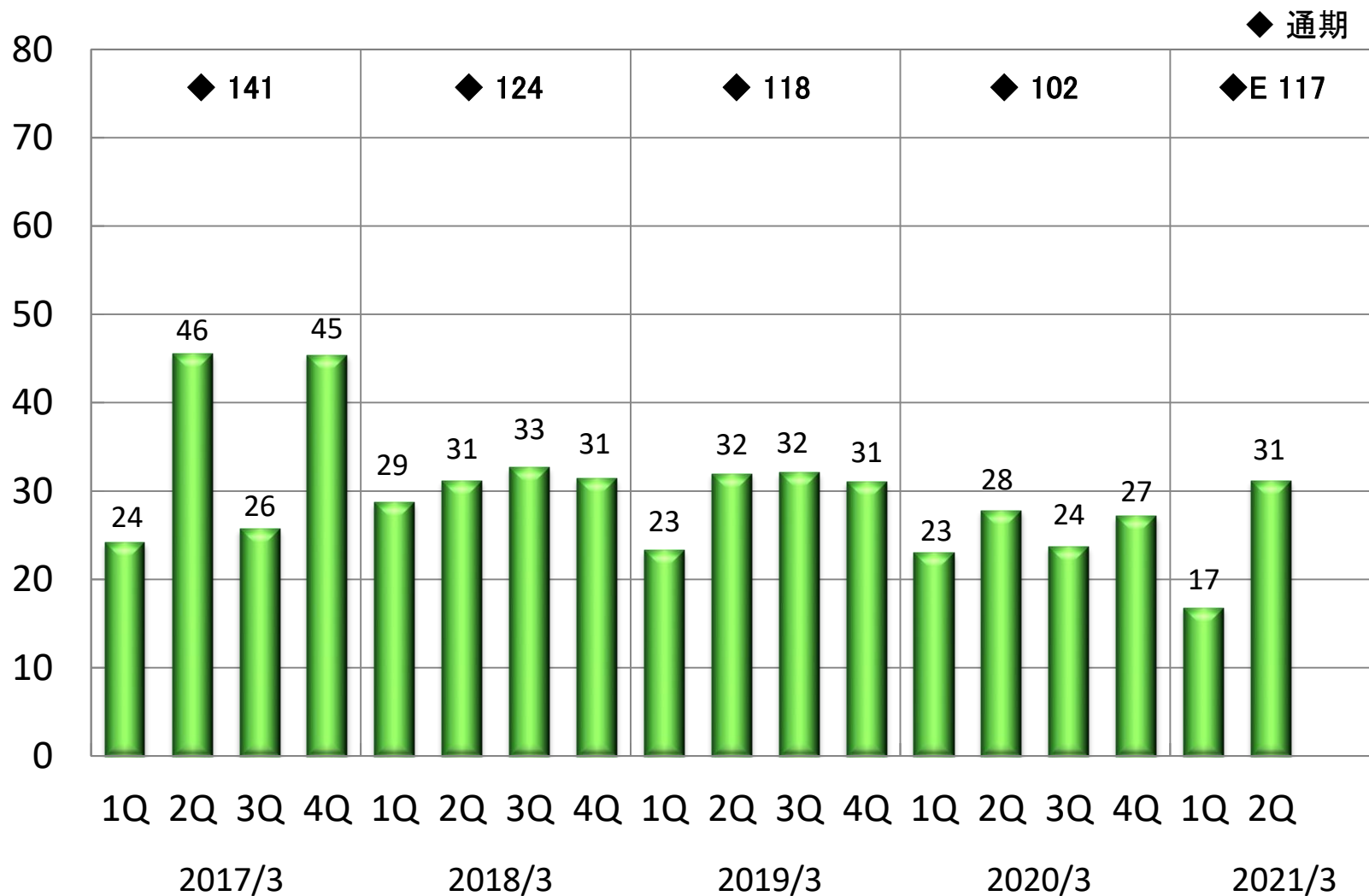
欧州 受注高

(million EUR)



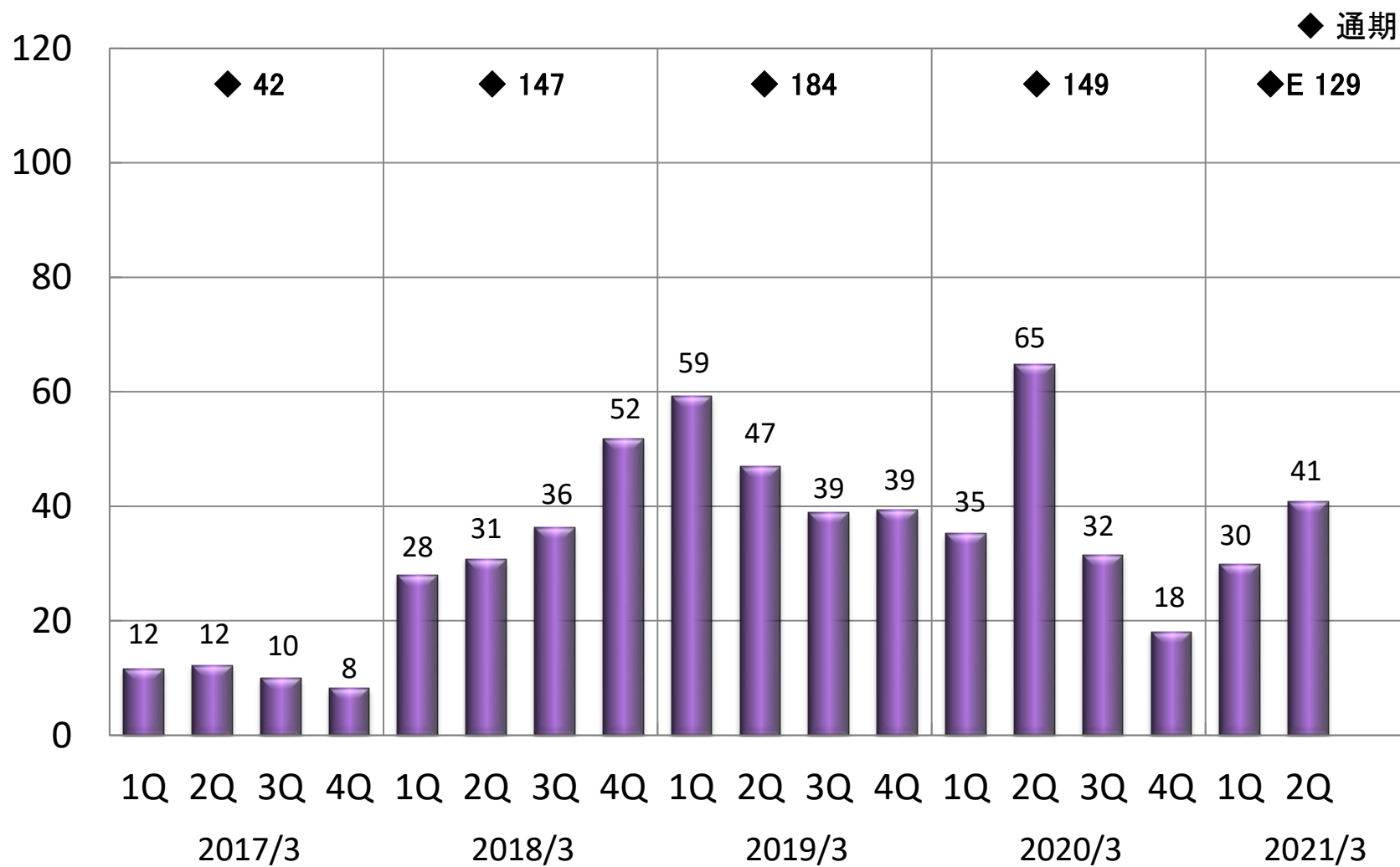
欧州 売上高

(million EUR)



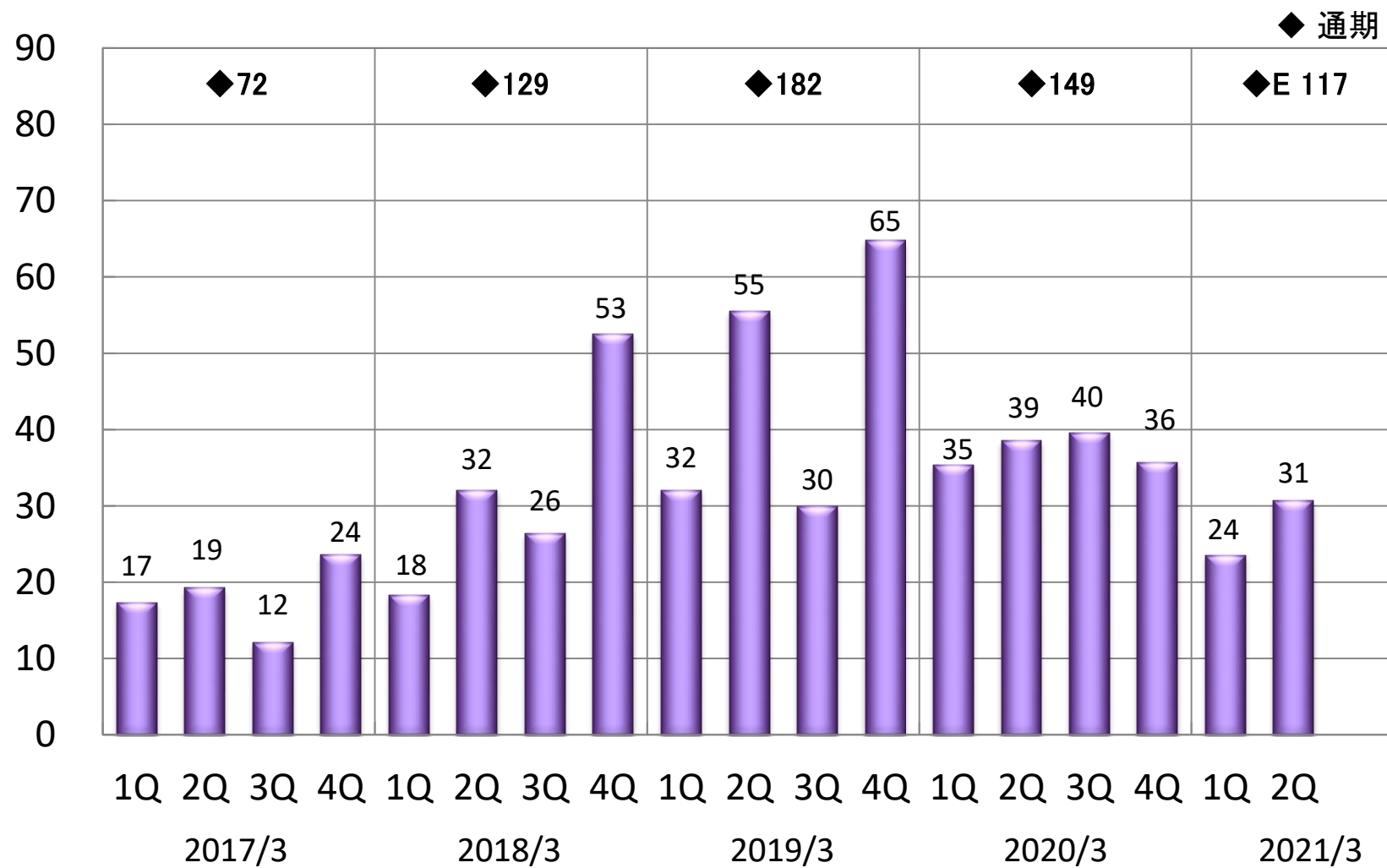
中華圏 受注高

(億円)



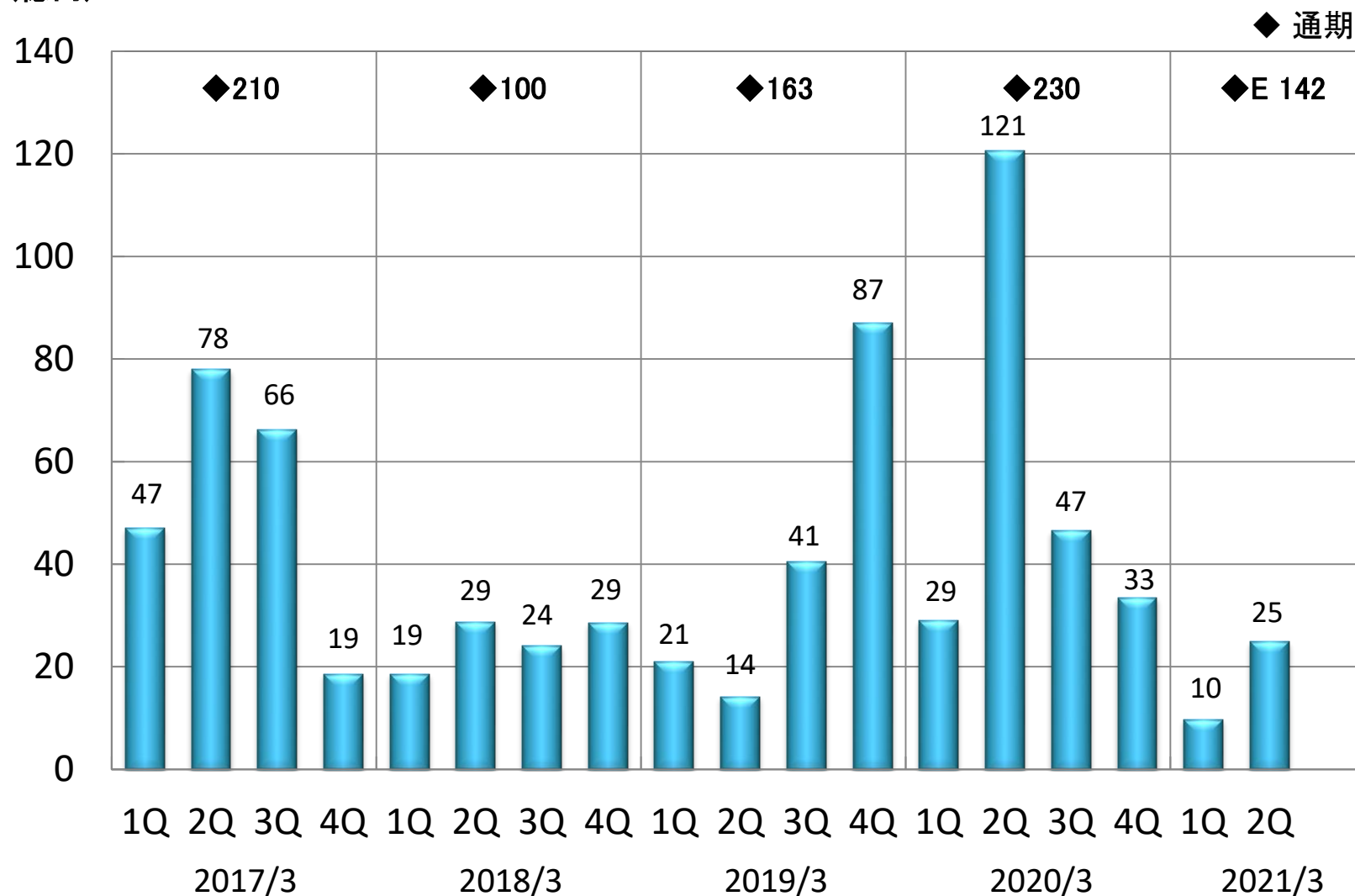
中華圏売上高

(億円)

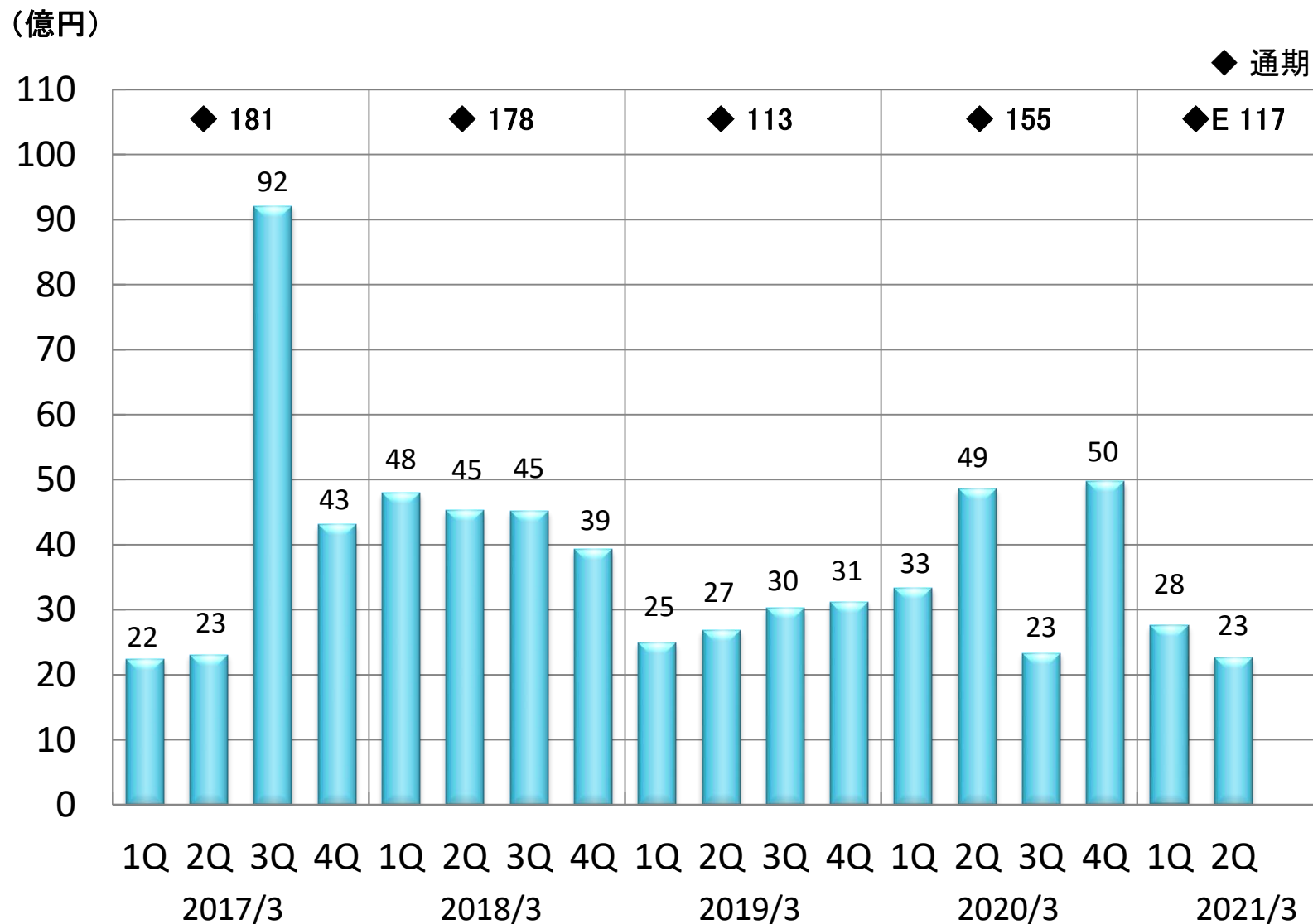


その他地域 受注高

(億円)



その他地域 売上高



第75期（2021年3月期）上期経営概況



2020年11月4日
株式会社小森コーポレーション
代表取締役社長(CEO)
持田 訓

1. 75期上期実績と下期計画
 - 1) 上期受注売上結果と下期計画
 - 2) 各国市場動向

2. 75期重点課題の進捗状況
 - 1) 緊急事業体質強化策の進捗状況
 - 2) 第6次中期経営計画の進捗状況

3. ESG(SDGs)対応（社会・環境への取り組み）

- ◆ 上期は新型コロナウイルス感染症の影響を受け受注売上ともに大幅な減収
- ◆ 下期は活動再開により受注、売上ともに回復を見込む、本格的な回復は来期以降

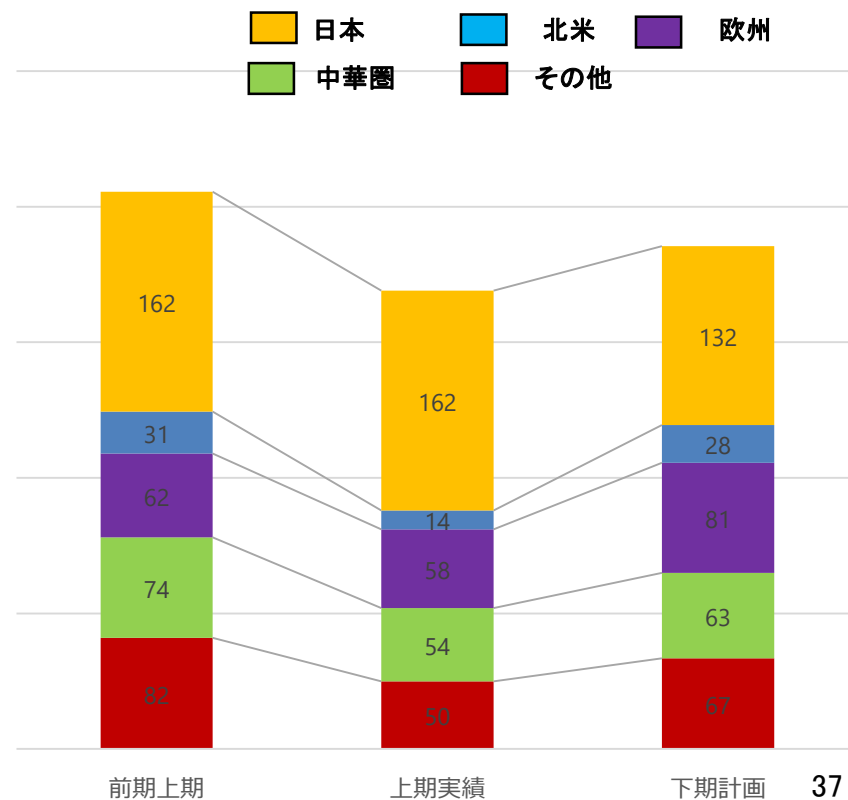
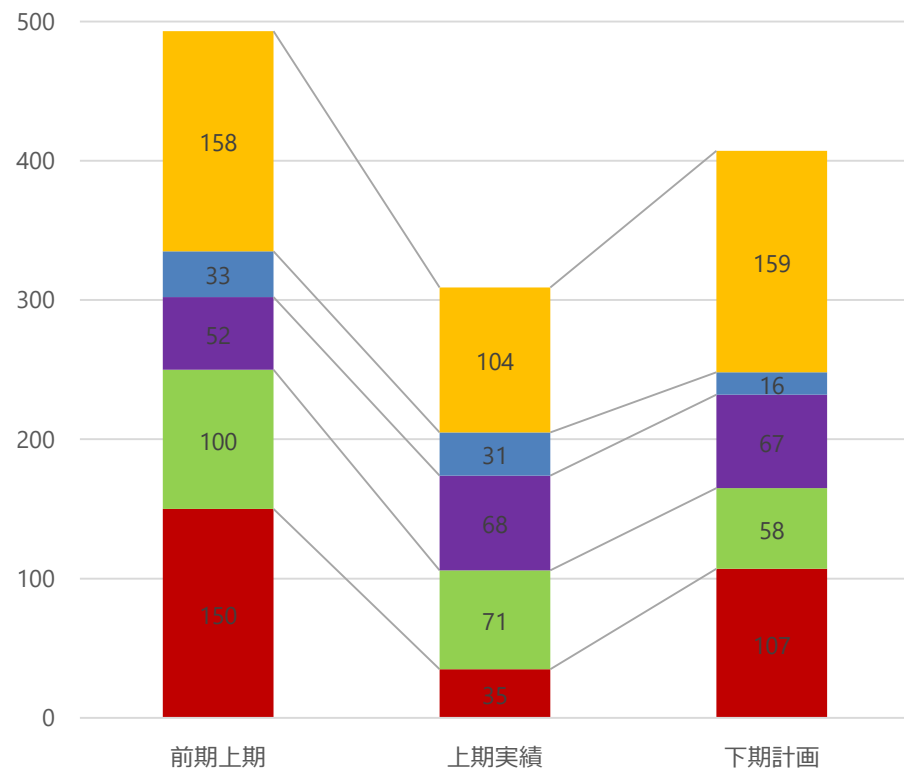
受注高

上期結果：309億円（前年同期比63%）
 下期計画：408億円（上期比：132%）

売上高

上期結果：339億円（前年同期比 83%）
 下期計画：371億円（上期比：109%）

(億円)



地域	75期上期（2021年3月期）の状況	下期及び今後の見通し
日本	<ul style="list-style-type: none"> ・5月中旬から後半にかけて各地で緊急事態宣言が解除。経済活動は再開しているが、印刷業界でGoToキャンペーンなどの恩恵は東京、関東圏等限定的。地方圏では印刷需要の回復は鈍い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都では設備投資を後押しする補助金が打ち出されており、需要喚起に期待。 ・10月に新機種GLX-40/GL-40advance内覧会開催、大変好評であり今後リモートプレゼンも取り入れ、販促強化。
北米	<ul style="list-style-type: none"> ・6月以降ロックダウンは解除になったが、経済活動の再開は州によってバラツキがあり、多くの州で活動に制限がある状況。オフセット機への投資は依然として低調。 ・11月大統領選挙のDM等の印刷需要が一時的ではあるが好調。 	<ul style="list-style-type: none"> ・失業率は戦後最悪まで悪化し、経済活動も依然として制限が続いており、設備投資の延期が懸念される。 ・大統領選の行われる2020年は事業の不確実性が増している事から設備投資判断は慎重。 ・コロナ禍ではあるが、継続的に事業回復すると約半数が回答。特にパッケージ印刷と加工、アパレル装飾業の成長に期待。
欧州	<ul style="list-style-type: none"> ・5月中旬から経済活動が再開されたが、コロナ第二波の影響が大きく、欧州全土で都市ごとに再度制限がかかってきている状況 ・欧州全土で経済が低調に推移。枚葉市場は縮小傾向加速。 ・トルコやイスラエルでオフ輪機の複数台受注獲得は大きな成果。 	<ul style="list-style-type: none"> ・欧州での設備投資マインドの回復には遠く、営業活動の本格化には暫く時間がかかると予測。 ・今後は中東やアフリカ諸国への販促強化。下期はこれまでのオフ輪販売強化対策が結実し、売上に貢献予定。

地域	75期上期（2021年3月期）の状況	下期及び今後の見通し
中華圏	<ul style="list-style-type: none"> ・7月から本格的に経済活動再開。商業印刷機は8月まで苦戦したが、その反動で9月は大幅受注増。 ・パッケージ内需向けは拡大しており、特に医薬品や一般消費財（FMCG）は伸びている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10月には上海展も開催するなど、中国国内の移動制限も解除された状態。印刷需要は回復傾向にあり、順調にいけば来期には前期並みに需要回復すると期待。 ・足元の引き合いは活況で、Q3の受注も9月からの勢いを継続して好調と予測。 ・対米、対印との貿易摩擦は依然として懸案事項。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・インドでコロナ感染が増加し続け脅威。州をまたぐ移動も制限され、搬入・検収作業が滞っている。 ・韓国はコロナ流行以前から2020年は需要低迷期といわれており、設備投資減。 ・インドネシア向け商業印刷機複数台受注獲得。大手印刷会社は今後も成長期待。 ・シンガポール、マレーシアではパッケージ機の商談は活況だが、競合他社に苦戦。 ・成長市場と期待されていたASEANでも、コロナ禍で全体の印刷ボリュームは減っており、DMやチラシの減少は顕著。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インド、ASEAN諸国でのパッケージ機の需要は今後も見込める予想。 ・ベトナムは唯一出版印刷需要が堅調と言われており、更新時期に需要期待。 ・通貨下落により新興国での設備投資へ及ぼす影響が懸念される。

事業	75期上半期（2021年3月期）の結果	下期及び今後の見通し
証印事業	<ul style="list-style-type: none"> ・各国での紙幣印刷機納入PJは盛況でアジアを中心とした各国からは中止や延期等はなく引合いは好調に推移。 ・各国の入国規制のために搬入作業の開始時期が不透明であるが、一部技術者派遣再開。WEBシステムを用いた証印機の遠隔納入も実施。 ・紙幣がウイルスを媒介するといった懸念からキャッシュレス推奨の話はあるものの、紙幣需要は衰えることなく、紙幣生産は増加傾向。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アジアを中心とした、当面の設備投資は底堅いものとみておりコロナ禍の中で搬入・検収を遅延なく進めて行く事が課題。
P E 事業	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ感染症を契機とした在宅勤務の急激な増加によるパソコン需要と、外出自粛によりゲーム機需要が増加し、それらに関連する電子部品の生産量が増加。 ・一方、自動車関連は減少し、高機能スマホも減少傾向が継続した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナを契機としたデジタル化の流れは今後加速するもの見込まれ、電子部品関連は今後増加を見込む。低迷していた、高機能スマホも5Gサービスの開始により、中期では成長の見通し。 ・電子部品は中国リスク回避のサプライチェーン見直しによりアジア各国へ生産拠点を移転する傾向から設備商談が増加傾向。海外販売を確実に増加させる。

§ 75期重点課題

- 1) 緊急事業体質強化策の進捗状況
- 2) 第6次中期経営計画の重点課題の進捗状況

緊急事業体質強化策の進捗状況

狙い	施策
キャッシュポジションの維持	<p><u>在庫削減を目的とした生産調整の実施</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・製品在庫の削減 前期末比 ▲33億円（※M&A影響除く） 台数 ▲23台
コストダウン 収益性向上	<p><u>総費用の削減</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・販管費の削減 前年同期比 ▲26億円（※M&A影響除く） ・リモートを活用した搬入作業、FAT、SAT及び営業活動の実施による旅費交通費の大幅な削減
業務効率向上 生産性向上 =働き方改革の 実現	<p><u>働き方改革による労働生産性の向上の取組み</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・社内会議、打合せ50%削減 ・オンライン会議の積極的な活用 ・在宅勤務（リモートワーク）の制度化 ・時差出勤による海外拠点との効率的な業務遂行 ・デジタルマーケティングの推進 （Web提案、Webセミナー、YouTubeを活用した製品・ソリューション提案等）

第6次中期経営計画の重点課題の遂行

狙い	施策
コア事業の強化 = オフセット・証印事業の収益拡大	<p>製品戦略</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「リスロンGLX40」シリーズパッケージ戦略機が日本、米国の主要ユーザーで本格稼働を開始 ・世界最高クラスのROI（投資収益率）を実現する 「リスロンGLX40/GL40アドバンス」シリーズの発表※10月より受注開始。 <p>注力市場・分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成長市場であるパッケージ及びアジア重点市場への販促強化 ・コネクテッドオートメーションの訴求による生産性向上提案の強化 ・Web、SNS等を活用した新商品提案の実行
	<p>証券印刷機事業の収益性向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欧州・アジア圏を中心に各国から継続的に受注獲得 ・キャッシュレスの普及に対して紙幣は増産が続き商談は活発に継続 ・新開発 8色ドライオフセット印刷(印刷性能と機能の向上) ⇒[Currency On Demand]の追及 ・リモートシステムを用いた、搬入作業、FAT、SATの実施

第6次中期経営計画の重点課題の遂行

狙い	施策
成長事業の 基盤づくり	<p><u>D P Sの事業化</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ B 1 サイズデジタル印刷機「Impremia N S 4 0」のβテストが最終段階に入り、10月より本稼働開始、性能の格段の向上。主要国での受注活動を漸次開始。 <p><u>P Eの事業化</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍を契機とした電子部品、基板関連の需要増に対応 積層コンデンサの生産性向上に寄与するギャップレス印刷機「RYURONE」多層基板等の穴埋め用途として最適な「真空コーター」 ・ 世界初となる印刷法を用いた「小径狭ピッチハンドボール搭載技術」の要素技術の確立(11/5新聞発表予定)
事業領域の 拡大	<p><u>MBOグループの新体制発足と本格的な事業活動の開始</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本年5月1日より新会社「MBO Postpress Solutions GmbH」の設立 ・ 小森海外拠点との事業統合（中国、フランス） ・ 自動化ロボット「CoBo-Stack」等の自動化提案

§ ESG経営の推進

当社のESG経営の取組み状況

区分	テーマ	目標	これまでの実施項目
E : 環境	脱炭素社会 循環型社会の実 現	Co2排出量2010年度比 ・2030年度50%削減 ・2020年度30%削減	Green-PJ活動の推進 Co2削減 ▲33%達成 (2019年度) 日経環境経営度調査 45位 (2019年度)
S : 社会	働き方改革の 実現 ダイバーシティの 推進	多様な働き方の実現 労働生産性向上 (アメーバ経営の指標を活用)	リモートワーク・時差出勤の制度化 計画年休の取得推進 時間単位年休制度の導入 女性活躍の推進 (くるみんの取得にむけた準備) 再雇用・嘱託社員の活性化
G : ガバナンス	コーポレートガバ ナンスの強化	・透明性の確保 ・意思決定の迅速化 ・コンプライアンスの確保 ・チェック機能の強化	社外取締役へのサポート体制強化 取締役会実効性評価の実施 業績連動型株式報酬制度の導入

<来期より更に活動を強化>

- ・部門横断的な活動組織の発足
- Green-PJを中核として活動を推進



※ 当資料に含まれている業績予想等は、本資料の現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり
実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

※ 当資料では表示未満単位を四捨五入して表示しており、内訳と合計が一致しない場合があります。